

頓原公民館流・地域とのコラボレーション

モデル公民館(H20~H22,H24~H25)
飯南町頓原公民館

【取組の概要】 公民館と地域が連携し、豊かな自然を活用した「プレーパーク」創設と「森の恵み講座」を開講。これをきっかけとして地域住民主導の・周辺施設・行政も加わった「とんぼらの里山で遊ぶ会」に発展して整備を継続し、町民の憩いの場としての活用とともに町外からの来訪者増加につながっている。

1 本事業に取り組もうと思った理由

地元住民組織からの相談をきっかけとして、地域・周辺施設・民間団体・行政・頓原公民館が共通理解のもと、連携し整備を進めていこうと考えた。

(1) プレーパーク整備前の頓原緑地公園は、十分な管理が行き届かず荒れた状態になっていた。この状況に地元住民団体の花栗振興会では、これを「どうにか活用できないか」という思いがあったが、具体的にどう活用すればよいかのアイデアをなかなか出せずにいた。

(2) 飯南町では「森林セラピーの町」として事業展開しているが、その拠点施設は頓原公民館エリア外にある。このため、頓原地域にも、町内の豊かな自然を気軽に利用した「森林環境教育をテーマとしたプレーパークを創設したい」という思いから、エリア内に森林資源を活用できる拠点を探していた。

(3) 平成25年3月の中国横断自動車道「尾道松江線・吉田⇄三次 無料区間」開通に伴う国道54号の交通量減少の問題があった。

頓原緑地公園に隣接する「青空市ぶなの里」へは、花栗地区の住民も野菜などを出荷しており、経済的な影響も懸念されていた。

以上の三点を背景として、これらの課題解決の一つの方策として、地域と公民館とのコラボによる、豊かな自然を活用した「プレーパーク」創設と「森の恵み講座」開講を企画した。

この取組を頓原公民館エリアのモデル事業として設定し、エリア内の花栗以外の地区でも同様異種の取組を展

開したいと思った。

2 公民館としての仕掛け

○地域課題の共通理解を深める

はじめは、公民館が主導して、地域や民間団体、周辺施設、町役場担当課等へ呼びかけて協議を重ねた。事業に取り組む流れの中で、次第に「花栗振興会」、隣接する「レストハウス・やまなみ」、「青空市ぶなの里」等の意思疎通が図られ、課題の共通認識を深めることができた。

○地域のやる気の喚起

「地域をどうにかしたい」、しかし「どうしたらいいかわからない」と行き詰まっていた地域が、事業計画に沿って、地域と公民館との協働で草刈り等の基盤整備を行うようになっていった。それにより具体的な成果が少しずつ見えてきたことがきっかけとなり、結果として地域のやる気に火がついた。そして、公民館はあえて「出しゃばる」ことを避け、あくまでも自主組織の一員という立場に留意した（「やればできる」という自信と達成感）。



○地域資源を活用した講座の開催

道の駅とんぼら・青空市ぶなの里から歩いて3分というアクセスの良さを活かし、程よい高さの里山に整備された遊歩道や池に囲まれた広場を会場に、地域資源を活用した自然体験講座や、都市部では体験できないアウトドア活動体験などの場を提供している。また、それらの講座の講師を、これまでの公民館活動の中で協力を

ただいている地域内の山菜や森林資源、園芸のスペシャリスト、伝統工芸等の技能保持者の方にしていただいた。そのことで地域人材・資源の再発見や発掘にも繋がったり、高齢者の「生きがい対策」にもなったりしている。そして、飯南町頓原で「こんなヒトがいる」「こんなモノがある」「こんなコトがある」という関心をもってもらうきっかけ作りになっている。

○小さなことでも情報発信

地域資源を活用した「ヒト」「モノ」「コト」の情報を、広くたくさんの方に知ってもらおうと、公民館ホームページ、SNS、地元ケーブルテレビ、各種報道機関(新聞等)、利用できる情報発信媒体を極力活用している。どれだけ素晴らしい企画でも、どれだけ情報が欲しい人がいても、どれだけニーズがあっても、それを発信しなければ誰も受け取ってくれないと考える。



3 事業の成果(地域の変容・公民館の変容)

○地域が主体。公民館はサポートへ。

当初は公民館主導だったのが、地域の「やる気」が生まれ、地域が主導し、周辺施設と行政を含め、より緊密な連携で事業に取り組む形に発展することができた。

地域主導の効果もあり、より町内住民への活動の周知が図られ、施設を利用する人が増えてきた。

「実証！『地域力』醸成プログラム」の助成金という予算的なバックアップもあったが、それ以上に「地域のやる気」が喚起されたことが大きい。公民館は、基本的に地域の背中を押しただけと考えている。

この事業を通じ、公民館は、目的を共有する地域や団体各々の活動「点」をつなぎ「線」とすることで、それぞれの活動の得意とする分野で活性化し、『うねり』となって、最終的に「面」となる事が実証された。このことは『人づく

り』を『地域づくり』へと醸成させるための有効な手段と考える。

4 公民館として「地域力」を醸成するために大切にできたこと

○地域・民間団体とのネットワークがポイント。

「公民館単独事業」から「目的や価値を共有する団体との連携事業」とすることが、地域を巻き込んで(地域の中に入って)活動をするために大切なことであると考えられる。

そのために日頃から心がけていることがある。

- (1) 地域の課題やニーズにアンテナを張っておく。
- (2) 公民館の敷居を低く。
 - ・出前講座
(頓原地区外にも気軽に。時には町外にも)
 - ・フレックスタイム講座
(PC・工芸等 出前講座の内容を行う。)
- (3) 積極的な情報提供・PR活動を。
 - ・様々な発信媒体を活用し広範囲へ情報発信する。

また、普段から地域の様々な活動に参加したり、個人としても地域や団体の活動メンバーに加わったりすることで、地域の実情を知ることができ、地域住民からは、敷居が低い、姿・形が見える公民館になってくる。そうすることで「身近な公民館」になる。

企画にあたっては、以下のことを大切にしている。

- 企画の目的と戦略を明確にし、ぶれない。
- 多機能・多目的・複合的な企画とし、意識して「子ども対象事業」を組み入れる。
 - ・地域の理解、協力を得やすい。
 - ・助成を受けやすい。
- 公民館が前面に出る必要はない。
 - ・目的が達成されることが重要。
 - ・公民館の名前を売ることが目的ではない。

公民館活動の中で「縄張り」「めんつ」「縦の関係」「手柄の取り合い」といったものにとらわれることなく、様々な活動に参加したり加わったりすることで、各組織、団体を有機的に結び付ける事が可能になる。

以上の点を大切にしているが、すべてにおいて言えるのは、小さなことからでも素早く実行に移していく「柔軟な小回り」と「スピード感」が重要と考える。